

平成 25 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対談 (多気町) 会議録

1. 開催日時：平成 25 年 9 月 17 日 (火) 16 時 00 分～17 時 00 分
2. 開催場所：クリスタルの森
3. 対談町長名：多気町 (多気町長 久保 行央)
4. 対談項目：
 - (1) 企業誘致の強化支援について
 - (2) 子育て施策支援について
 - (3) 定住促進対策の推進について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知 事

今回で 1 対 1 対談を久保町長とやらせていただくのは 3 回目になりますが、この 1 対 1 対談自体、来年度の予算編成に向けての課題を町長や市長にお伺いするのが、この 1 対 1 対談の意義であります。主に来年度に向けていろんなお話をしていきたいと思いますが、それ以外の中長期的なことも含めて有意義な時間にしたいと思います。

久保町長は、今日もいくつか企業誘致の話もありますが、さまざまな県が行う観光、食、企業誘致、そういう PR の場に積極的にお越しをいただいて、多気を売り込んでいただいておりますということで、その姿勢には私も本当に感銘を受けているところで、大変感謝をしております。

その一環としても、この 9 月末には高校生国際料理コンクールが、県立相可高校で行われますが、私どもは最後をサポートさせていただいたぐらいで、本当のところは町長が前面に立って、台湾との交渉も誘致もしていただいた、その結果が、今月末にある高校生国際料理コンクールであります。残念ながら私は公務でまいれませんが、大盛会をお祈りしておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今日は限られた時間ではありますが、有意義な時間にしたいと思いますし、町議の先生方もたくさんおみえですので、いろんな課題を共有してやっていきたいと思います。

多気町長

クリスタルの森を選ばせてもらったのは、今、知事がおっしゃったように、私が町長にならせてもらってから 3 回目になりますが、毎回同じテーマを掲げておりますのが企業誘致であります。

なぜ、ここにしたかといいますと、後ろを振り返っていただいて、この裏がずっと町が今、計画をしておりますクリスタル工業団地であります。この6月議会に今日おみえの議会の皆さん、そして、今日は地元からも対策委員の方も来ていただいており、何としても早期にここへ企業誘致をやりたいという思いでありまして、知事にも改めてここを見ていただきたいという思いであります。

そして、今おっしゃったように、多気町は今いろんなことを取り組んでおり、今おっしゃった高校生レストラン、食の交流フェアというのも、この28日に、これは「おこないまつり」と一緒にやります。もちろん27日の前日には、世界の高校生に来ていただく料理コンテストがあります。

多気町は今、指定をいただいておりますヘルスツーリズムの中にイノベーション特区がありますが、これらと併せて食と生まれる方と職業を合わせた食のヘルスツーリズムを併せてやっていきたいと思っていますので、ぜひ、多気町のこれからのまちづくりにもご支援をいただきたいと思っております。

(2) 対 談

1 企業誘致の強化支援について

多気町長

最初に挨拶の中でも申し上げましたが、企業誘致の支援ということで、今、地元の方も来ていますと申し上げましたが、地元の方、地権者の方、町民の皆さんも、今なんとしても多気町に働く場をと思っておりまして、これはなぜそんなこと言うかといいますと、多気町に今、大企業さんとしてシャープさんが平成7年に立地をしていただいてから10数年経っております、それ以来、大きな企業立地がなかなか見込めていないということで、私が町長にさせてもらってから、とにかく早く現地を着工せよということで、この6月議会で議会の皆さんから同意をいただき、本格着工に入ります。来年の秋には、この団地は約10haありますが、全部仕上がります。

今、町では順調に開発の事務を進めており、入札にも入りますが、これまで開発について気になったことがありましたので、支援をいただきたいと思っておりますのは、まず1つは、一般の事業者さんがやられる工業団地、それから、我々自治体がやる工業団地、いずれも地域を活性化する、地域振興につなげていくことに変わりはないと思っておりますが、一般の事業者さんと自治体がやるのではどこが違うかといいますと、我々がやりますのは営利を目的としておりません。必要な分だけお願いをすることになります。

ところが、今、県へ出させていただいております開発行為や手数料関係を含めても、変更の度に担当者の言い方でいきますとお金がかかると。現在、

87万円ほど、10ha以上あるとお金がかかりますが、変更がある度にお金がかかっていくということで、この辺の取扱いがもう少し柔軟にできないかと思えますのが1点です。

それから、開発関係につきましては、いろんな開発の部門、それぞれ農林部門、建設の関係などありますが、林地の開発については、なかなかホームページで利用できていないということから、電子化をお願いしたいと。

といいますのは、電子化されていたら、町のほうで全部変更の書類などは書き込むだけでいいのですが、一々紙ベースでやらなければならないということで、これは多分近々されるとは思いますが、こういうことをお願いしたい。

あと、はじめに挨拶の中で申し上げましたが、開発行為関係で特に自治体がやるのは営利目的ではないということもありますので、開発行為に係る事務は結構手間がかかりますので、もう少し柔軟な対応が県の開発部でもできないかということをお願いしたいと思えます。

今、この近辺で自治体で工業団地開発を手掛けているところは見当たりませんので、多気町がやるということは、ここから特に以南についての若者の雇用の場、働く場の確保にもつながりますので、なんとかという想いがあります。こういうことから、もちろん県の企業誘致推進課にはいろいろお願いをして、いろんな企業さんのご紹介もいただいておりますが、なかなか立地には至っていないこともありますので、よろしくお願いします。

知 事

まず、企業誘致や県内への投資の全般のお話をさせていただいた上で、先ほどのことを少しお話させていただきたいと思えます。

県も今年から新しい県内の投資を促進するための制度をつくりました。これは「マイレージ制度」というのが一番目玉の制度であります。これは、例えば5億円を一つのハードルとしたら、今まで5億円以上一気に投資をしなければ補助金の対象にならなかった制度であっても、1年目に例えば2億円、3年目に2億円、5年目に1億円というふうに合計5億円になれば対象にしますという、今までは一度で5億円じゃないとだめだったのを、こういうふうにしました。

これはなぜかという、平成14年ぐらいまで5億円以下のいろんな県内に来る小規模な投資は4割ぐらいでしたが、平成23年では5億円以下の小規模な投資が6割近くになってきているということは、小規模な投資であってもそういうインセンティブをつけていくことが、一度で大規模なものだけに支援するのではなく、小規模なものにも支援をしていくほうが、より投資が進

みやすいのではないかとということで、「マイレージ制度」いわば飛行機のマイレージポイントが貯まっていくような感じでマイレージ制度というのをつくりました。これは全国初めてであります。

それから、「マザー工場化」というのですが、単純な組立はアジアの方に行ってしまうことが避けられない今の状況の中で、アジアの組立などの工場の人材の指導や最初の試作や開発など、お母さんの、マザー的な存在を果たす工場をめざすところには思いっきり支援をしよう、補助率も上げています。

さらに、人が移動してきてもらった場合、例えば県全体でいくと、ホンダの鈴鹿製作所というところは、軽自動車の日本の拠点にホンダがしようという話になって、そこに狭山から軽自動車の部隊の人が100人規模で来ましたが、その100人ということについても、彼らは申請してきてないので対象になりませんが、そういうマザー工場を進める場合に人が移動してくる場合であっても、設備投資でなくても補助するという制度をつくりました。これも日本で初めてだと思います。

こういうのをつくった結果、今年になって立地協定を結んだものだけでいけば、上半期で前年の4倍になっていますし、多くの問い合わせが相次いでいます。

そういう意味で、今、造成していただいているところは、我々から見ても企業がお願いをする面積について、僕も外資系企業の社長と直接電話でやり取りをしたときもありますが、形や面積は結構細かく言われるので、そういう意味では柔軟に対応しやすい工業団地ですから、我々にとっては紹介しやすい案件の工業団地になっています。

したがって、さらに、今まで企業立地の意向はありませんかというアンケートを送りっぱなしみたいなのところもありましたが、もっと丁寧に今、新しい懇談会やセミナーもやり続けていますが、そういうようなことでなんとかこの完成後の立地に向けて、我々もしっかり多気町さんと一緒に汗をかいていきたいと思っています。

そういう中で、先ほどおっしゃっていただいた手数料の関係、あるいは林地開発の電子化、事務の簡素化、こういう部分については、実務のところはどういうところがネックになっているのか、僕ももう少し担当と話をし、せつかくこういう形でやっていただけるので、前向きに進められるものは前向きに、今申し上げたような補助制度で他の県ではやらないようなこともどんどん積極的にやろうという姿勢でおりますので、事務のことについても、例えば法令とかどういう部分で引っ掛かっているのか、更に詰めさせていただいて、前向きになんとかできるような部分はやっていきたいと思っております。

ます。

多気町長

知事のほうからいろいろと県の支援制度も言っていただきましてありがとうございます。今日のこの場で細かいところまでやっていますと時間がありませので、あと、私の方からどんなことを今やっているかだけ聞いていただきたいと思います。

今年に入りましてからバイオマス関係の事業に11回ぐらい、食品関係、製薬関係の会社へ6回ぐらいの17回ぐらい、大体月に2回ぐらいずつはどこの企業さんへ私は足を運ばせていただき企業誘致をさせてもらっています。

今日のこの対談のことをメディアを通じて宣伝してほしいのは、多気町は今まで支援というのは、大体5億円の投資をしていただいたら、町で約1億円の助成金を出しますというのをやったり、あと、アフター関係も十分やっていますと思います。今、シャープさんの関係では、太陽光発電をこれまで補助をさせてもらっており、約1億数千万円ぐらい。多気町の340~350戸のご家庭の屋根には太陽光発電が乗っております。昨年まではkw当たり10万円の補助を、4kwでいけば40万円補助を出しておりました。一番多いときはkw当たり25万円というのを2年間やりましたが、これは100万円の補助を出しました。こんなこともやりましたので、随分普及していると思います。

それから、あとのアフターとしましては、今年、シャープ製品、一時、調子が悪かったので、シャープ支援ということで何でもいいからシャープの製品であれば助成をしますと。マックス5万円というのもしました。1,700万円ぐらいの売上がありました。ただし、条件がありまして多気町で買ってくださいと。これは多気町の商工業者の特に商売をやってみえる方への支援にもつながるというのでやりました。こんなことをやっておりますので、多気町はこういうことをやっていると言っていたいただければありがたいと思います。

2 子育て施策支援について

多気町長

子育て支援につきましては、特にお金のことを言って悪いですが、次世代の育成支援特別保育推進事業補助金、低年齢児の保育推進事業に補助金がなくなりましたので、できましたら、復活をお願いしたいと思います。

それから、お礼を言わせていただきたいのは、一昨年、児童館ができました。これの運営も順調にいておりまして、今、60名ほどの子どもたちが来ていただいております。

なぜ、児童館で放課後児童クラブをやったかといいますと、多気町は5つ

の小学校がありますが、1箇所の相可小学校を除いては、10人未満の利用者でしたので、これはなんとかしなければ全部つぶれてしまうということがありましたので、今回、そういう集約もやりまして、今、続けております。

それから、子育て支援センターにつきましても、延べで9,000人ぐらいの利用もあります。非常に順調に動いています。

あと、相談サポート事業というのもこの児童館でやっておりまして、ここでは発達障がい児の支援システムアドバイザー研修制度というのをやっておりますが、これはあすなろ学園からの支援をいただいておりますので、ぜひ、これらの支援をまた続けていただきたいと思います。

それから、これからの保育所、保育園の制度についてですが、今、自然派保育園の創設を考えておりまして、もし、これから私がこういう立場で仕事をさせてもらうのであれば、今、多気町に保育所は5つあると申し上げましたが、自然派の保育園、テレビでもいつかやっていましたが、子どもたちが自然で、少々ケガをしても親は文句を言わない、例えば、ここの竹藪や川原で自由に魚を捕ったり、ちょうど私たちの子どもの頃ですが、こういうような自然派保育園をつくっていきたいと思っておりますので、もし、知事の頭の中にこういうことについて、また考えてやってもいいということがありましたら、そういう応援もお願いしたいと思います。

知 事

まず、冒頭におっしゃっていただいた低年齢児保育推進事業ですが、皆さんもご存知だと思いますが、待機児童は4月1日より、年度途中でお父さんお母さんの働く状況によって段々増えていくわけですね。国、全体でそうなんです、三重県でも4月10月に取ります。昨年度、平成24年度は、4月で取ったときは41人、10月で取ったときは333人、これは三重県全体の待機児童の数です。全国的に4月より10月のほうが多くなる。これは、年度途中にいろんな会社の事情があつて、どうしても働かなければならなくなった、あるいは、旦那さんが仕事上難しくなったというようなことで。ちなみに、この25年度の4月は27人ということで、去年よりも大分、県全体で待機児童を減らしました。

さっきの低年齢児保育というのは、去年から年度途中に入ってくる子どもたち、増えてくる子どもたちに対応するための保育士の人件費などを対応しなければならぬのですが、そういう形でそれまでもやっておりましたが、特に待機児童が多いところに重点的にやっというということで、今年度、少し事業をリニューアルしました。

そうすると、逆に頑張つて待機児童を減らして、41人から27人に4月時点

で下がっていますので、待機児童を解消した市町は今回、結構たくさんありました。待機児童を減らして頑張った方が補助金をもらえなくなるというちょっとした矛盾になると。今までは年度途中の加配などがなかったので、その人件費に充ててきた。今年度から待機児童の数が多いところに人件費の補助を当てていこうと。待機児童がなくなったところにはその補助金を減らしましょうとやったので、頑張って待機児童を減らしたのに補助事業がなくなるのはおかしい、年度途中から子どもたちが入ってくる状況に変わりはないのにという矛盾があるということで、市町の皆さんからもたくさんご指摘をいただいていますので、今後、国の子育ての補助金も全体のリニューアルを考えているようですので、少子化対策、あるいは子育てという国全体の補助事業の変更も見ながら、県としてもどう対応していくか考えていきたいと思いません。

一方で、大体どの年も年度途中で待機児童が増えていくのは、待機のみならず入ってくる児童もそうですが、増えてくるのはずっと保育をやっている分分かっている話なので、年度途中で先生を新しく加配するための人件費や先生自体を年度の最初から充ててほしいということを、三重県としては国にずっと要望してきまして、最初から増えてくるのが分かっているなら、年度の最初からやって、増えてこない間は充実した保育で子どもたちに1人でも多くの保育士がいれば、その分きめ細かな保育ができるのではないかなというように言ってきたわけですが、まだ国のほうは認めてもらっていませんので、引き続き、そういう要望もしていきます。

いずれにしても、子育て・少子化関係の補助制度は、来年、三重県も少子化対策を重点化施策に取り上げていますので、リニューアルする中で今の低年齢児保育もどうするか考えたいと思っています。

放課後児童クラブの件ですが、これも小規模な部分について、国は10人以上しか補助金を出しませんので、5人から9人のところを三重県がカバーしていますので、そこから10人未満のところも国の方で出る形でできないかなという要望も、今、併せてしているところです。

先ほど町長から言っていたいただいたあすなろ学園のシステムアドバイザー、これはご案内の方も多いと思いますが、改めて申し上げますと、あすなろ学園は、少し前まで日本で唯一の児童精神科単科の専門医療施設でした。児童精神科で専門的に子どもが通える単科の病院は、全国であすなろ学園しかありませんでした。24年に札幌でできましたので今は2つですが、昭和49年からずっと今の園長が入って約40年近くやってくれている、発達障がいや児童精神に関するノウハウを持ったところなんです。この前も田村厚生労働大臣にも来ていただいて、田村大臣もびっくりするぐらいの三重モデルだと言ってい

ただきました。

今、町長がおっしゃっていただいたようなシステムアドバイザー、各市や町で発達障がい子どもたちの総合的な窓口をつくっていくための人材育成をあすなろ学園でやっているんですね、市町から派遣していただいて。これは派遣していただくのも大変なことなんです。町や市にとっては、半年や1年、研修に出さなければいけませんから、それを英断していただいているのは、すごく大切なことで、今、20 ぐらいの市町でやってもらっています。それをあすなろ学園で半年や1年受け入れて、戻って各町や市で総合窓口の中心人物になってやっていただくと。町長にはこの前、システムアドバイザーの説明会を多気でやらせていただいたときも、自ら出ていただきご挨拶もいただいて、本当にこの分野に大変理解をいただいているので、私どももううれしく思っているところです。

そのシステムアドバイザーの養成の研修については、引き続き、来年度もしっかりやっていきたいと思えますし、あすなろ学園の横に、県内で唯一の肢体不自由の子どもたちのリハビリテーションをやっている草の実リハビリテーションセンターというのがありまして、合体して、29 年度に新しい「こども心身発達医療センター（仮称）」というのをオープンしますので、全国的な発達障がいに対する支援の拠点として、今のシステムアドバイザーも継続してしっかりやっていきたいと思っているところです。

それから、自然派保育園、最近流行っていますね。僕も鳥取県に子育て同盟というのに行ったときに、「森の幼稚園」というのがあり、その森の幼稚園の映像を見せてもらったのですが、子どもたちが泥だらけになって楽しそうに就学前の教育を受けているのを見ました。あと、東京のどこかでどろんこ幼稚園というのもやっています。三重県ではあまりないですが、そういうのが最近、特に全国的には非常に注目を浴びている状況です。

27 年度以降になると思いますが、私立のそういう特色ある保育所の整備の支援については、国でも今、検討してもらっていますので、県においても財政的にも人的にも一定の役割を果たすことになろうかと思えますから、自然派保育園の設置・整備にあたっての支援について、国が今、検討していますから、それに合わせて県も必要な役割を果たしていきたいと思っています。

私もいくつかの法人を存じ上げていますが、全国のそういうのを町長もご覧になられたと思いますが、ご覧いただき、これはええなと気に入っていただいたものは、誘致していただくといいのではないかと思います。

多気町長

いずれも前向きなお話をいただきました。多気町には、待機児童はいませ

ん。というのは、1箇所の保育所は子どもたちがとても多いですが、他は容積はありますが、なかなかそこへ入ってくれないというか、子どもがいないというのがあります。そういうことで、いつかは多気町の保育園もどんな形にするにせよ整備をしなければいけません、自然派保育園につきまして、今、知事から鳥取県の「森の幼稚園」のことも聞かせていただきました。

自分の想いとしては、スタート時には、少なくともいいので多気町の子どもはとても元気だなという保育園をつくりたいと思ひまして、近いうちには何かこういうのをつくらないと、部屋の中にもったもやしみたいなのが多くなつてはいけないと思ひますので、多分、今日、前におみえの皆さんは、ほとんどが自分の家の近くの山や川で遊ばれた方が多いと思ひますので、こういう子育てをやっていければと思ひています。

今、国もいろんなことを考えていただいていると思ひますので、なんとか他の保育園の扱ひ方や子育てについても、いろんな人から意見を聞きながら進めていきたいと思ひますので、いろいろご支援もいただきたいと思ひます。

3 定住促進対策の推進について

多気町長

定住促進対策につきましては、今、多気町は大体年間毎年 100 人ぐらいつ人口減が続いておりまして、自然減といひます。生まれてくる子どもとお亡くなりになる人が大体 1 年間、お亡くなりになるのが大体 180 人前後、生まれてくるのが大体 120 人ぐらいということで、大体 60 人が自然減。100 人と言ひましたのは、あとの 40 人ほどは転出であります。特に大きいのはシャープさん、企業さんの関係が多いかと思ひますが、いずれにしても学校を卒業したら多気町から出て行くのが多いと思ひます。一番大きいのは、働く場がないということで、これは項目 1 のはじめに言ひました企業誘致であります。これがあれば多気町に働くところがあるので多気町に住んでくれると思ひます。

もう 1 つは、魅力ある多気町に住みたい、近くに働くところもある、住みたいという制度をつくっていかねばならんということで、今、いろんなことを考えております。子育てもそうですし、自然なところに住んで、空き家対策も含めてそうですが、こんなことをやりながら進めておりますが、なかなか思ひ切った定住対策はとりにくいと今思ひておりまして、何かモデル事業になるようなことをこれから進めていきたいと思ひます。

これにつきましては、県の方に特にどうというのは難しいと思ひますが、県の方で定住促進についての案があれば、これからも教えていただきたいし、我々の取組もやりやすくなると思ひます。

もし知事からその辺について教えていただければありがたいと思います。

知 事

定住促進は特に三重県全体の中でも、津や松阪から南、あるいは中山間地というようなことで、大変重要な課題だと思っています。

県もこの1対1対談を担当している地域支援課というのがありますが、そこを窓口にしっかり市町と一緒に地域づくりをやっていくことで体制整備をしていますので、そちらにご相談いただければと思います。そこが担当のこの1対1対談も、「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」というものの枠組みですが、その下に特定のテーマを検討する検討会議というのがあります。そこで議論したものに使える「三重県地域づくり支援補助金」というのが活用できますので、そこで例えば定住促進のモデル事業などはいかがでしょうかという話になってきたら、検討会議のモデル事業にお金も使えるようになりますので、そういうご支援もさせていただければと思います。

あと、「移住フェア」というのを去年、東京でやって、今年も関西や中部でもやろうと思っています。かなり好評で東京では100人ぐらいの方が来られて、非常に興味を持っていただいて、実際にまだ尾鷲やあちらの方へ何人か移住していただいた方も、その移住フェアの関係でおられます。そういうところで多気町さんも一緒になってPRをさせていただけたらと思いますし、また、9月28日に三重テラスをオープンしますので、そういう場でも定住をしたいというような人たちへのPRなどもやっていきたいと思っています。

ちょうど、一昨日、土曜日に「すごいやんかトーク」というので志摩市に行ったときも、志摩で漁師塾というのをやっていたのですが、漁師塾も僕がテーブルを一緒に囲んだ人は、大阪府、東京都、神奈川県とかの出身者ばかりで全体で20人位が全国から来られて、今、漁師めざして志摩で頑張っているという、既に何年も住み込んでいる人がいますので、そういう個別ごとにしっかりPRをして、その人の想いにぶち当たるようなことができれば、地道な活動ではありますが、増えていくかと思っていますので、そういう部分のPRや個別ごとにあたっていくサポートを県もしていきたいと思っています。

最近も徳島県の神山町という、ITとか芸術家を集めて、ITの仕事は東京にいなくてもネットがあるのでなんとでもなるので、そういう人たちを集めた神山町というのがあります。そういうところへ県の地域連携部の職員が行って、どういうふうになれば過疎地や中山間地でも人が集まってくるかという勉強も今していますから、そういう勉強した成果などもシェアしながら一緒にやっていければいいなと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

多気町長

今、知事がおっしゃったように、まず、私どもの町も期待しております三重テラスはぜひこれから発展していきますようお願いをしております。このことが我々の町からも応援を出させていただくときに、多気町というのを知っていただいて、もしかしたら、それが定住につながるかと思えます。

今、多気町でいろいろ全国に発信しておりますのは、ふるさと村、特に「まごの店」の高校生レストランがあったり、先般、6月4日だと思いますが、日経新聞に何でもランキングというのが掲載されまして、何が掲載されたかといいますと、「まめや」の農家レストランが全国ナンバー2になりました。これらがあったり、もちろん多気町は食の町ということで、近くには「ふれあいの館」や「元丈の館」がありますが、ここへも来ていただいております。

それと、この24日から28日の間でやります「食の交流フェア」、これらもこれからの多気町の定住にもつながっていくかと思ったり、あと、「自転車のまちづくり」というのもやっております、マウンテンバイクの大会をやったり、こういうので全国に多気町のまちを知っていただいて、来ていただかないことには住んでみようかということにならないと思えますので、まず発信をして来ていただくことが大事かと思えますので、こんなことをやりながら多気町をPRしていきたいと思っています。今後ともよろしく願います。

知事

空き家の関係で、今、県内で9つの市と町が「空き家バンク」というのをやっています。それで既に24年度末までで84件の契約が成立しています。去年1年間だけでも28件の契約が成立していますので、そういう事業なども参考にさせていただいたり、活用していただくといいかと思えます。

あと、国の方でも防災の関係で空き家が避難や、何か災害が発生したときの支障になってはいけないということで、いくつか法律なども変わっていくようですので、そういうことも情報提供をしつかりしたいと思えます。

多気町長

1つだけ、「空き家バンク」のことですが、多気町も空き家バンク制度をつくりまして、今、募集もかけております。

最後にですが、伊勢神宮が近くにありますので、多気町、近くの町もそうですが、この辺は2,000年の間、大きな地震に見舞われたことがありません。安心して住める町ということでありますので、こういうことで全国の皆さん、多気町を中心に知っていただいて、住むなら多気町ということにしていた

ければありがたいと思います。